

# 粉碎装置の特許取得

## ホタテ産地で注目度高まる

### 旭川市の正和電工

旭川市の正和電工(株) 橋井敏弘社長、電話0166・39・7611が開発した「ホタテ貝殻粉碎装置」が、このほど



橋井敏弘社長

特許(登録番号7475752)を取得した。すでに受注販売を開始しており、問い合わせ件数は増加の一途。水産加工業者の注目度が高まっている。

バイオトイレの製造・販売が主力の同社・橋井社長は、数年前にオホーツク海沿岸で山積みになったホタテの貝殻を目の当たりにし、水産加工関係者から「産業廃棄物になる貝殻を粉碎できたら……」という切実な悩みを耳にした。こ



1・23、3・22 貝殻の粉末



ホタテ貝殻粉碎装置

れを機に粉碎装置の開発を進め、改良を重ねながら2023年末に最終形の粉碎装置を完成させた。

特許は今年4月19日に登録されている。同機の型番はKG-750型。寸法は高さ1・11m、幅1・33m、奥行き74cm。電源は3相200V、モーターは7・5kW。本体下部に取り付けた回転刃でホタテ貝殻を粉碎する。1回の投入量は15kgま

## リサイクルに貢献

きゅういち

### 北海道スカラップに貝殻納品

函館市のきゅういち(株)は、ホタテ貝殻の再利用に向け、今年からリサイクル製品を製造する(株)北海道スカラップ(鹿部町)に貝殻を納品する取り組みを開始した。

で。最短1分で粉末状になる。分単位で回転時間を調整できるため、粒径を変えられるのが特長。最長2分で自動停止となる。販売価格は税別290万円、インバーター制御付きは同380万円。橋井社長は「貝殻の主要成分が炭酸カルシウムのため、土壌改良や飼料として有効活用できる」と強調。また「環境に優しいためSDGsに貢献できる」と説明。ホタテ以外にカキやアサリ、アワビの殻も粉碎できるため「手軽で便利なりサイクル機器として活用してほしい」と期待している。

産業廃棄物として処理してきたホタテ貝殻は、一部を韓国のカキ養殖業者に送りリサイクルに努めてきたが、直近数年はコスト・人件費面から取り組めない状況。貝殻を重要な資源として捉え、SDGsの一環としてサステナブルな活動を推進しようとリサイクル事業に注力する。

北海道スカラップは噴火湾の水産加工場でボイル処理されたホタテ貝殻を粉碎し、用途に合わせて粉末・造粒化したリサイクル製品を製造。肥料や土壌改良材として道内外に販売し、廃棄量の大幅削減につなげている。